

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が互いの存在を大切にし、互いを思いやり助け合う児童の育成を目指して
～人権意識を育むための日常的教育活動を通して～

(1) 主題設定の理由（本校の教育目標と児童の実態から）

本校の教育目標は「豊かな心をもち、自ら学び考え、たくましく生きる児童の育成」である。本校の目標を受けて、「公平で差別や偏見をもたない子ども」「思いやりの心をもち、誰に対しても親切に行動できる子ども」「仲良く助け合いながら、最後まで仕事をやり遂げる子ども」「物事を正しく判断し、行動できる子ども」「自ら学び、自ら考える子ども」「きまりを守り、健康で安全な生活をする子ども」を育てることを人権教育の目標としている。これらの目標を達成するためには、児童一人一人が互いの存在を大切にしていかななくてはならない。また、そのためには、互いを思いやり、助け合う心をもち、互いのよさに気付くことができる児童を育成することが大切である。

本校は、普通学級13学級、特別支援学級6学級の中規模校である。第1学年は2学級で、本学級は27名で明るく元気な児童が多い。母子家庭が学級の2割を超える。入学してまだまもなく1年が過ぎようとしている。学校のルールがわかり、自分のことが自分でできるようになってきた。まだまだ自分のことで精一杯で、人権意識をもてるような実態ではないが、少しずつ思いやりや助け合いの気持ちを育み、自分のことだけでなく、周りの人々のことも考えて行動できるようにさせたいと考えて本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 互いのよさを大切にする環境作り
- イ 互いを大切にした豊かな体験活動
- ウ 互いのよさを認め合うための学級づくり

2 実践の内容

(1) 互いのよさを大切にする環境作り

ア 活動の流れや活動の足跡が分かる作品や資料の提示

児童の作品や係コーナー、誕生月コーナー、互いのよいところを書いたカードを掲示するコーナーなどを作り、学級の一員としての所属感を味わえるようにした。

イ 道徳コーナーの設置

道徳部からの提案により、全学年で道徳コーナーを設け、道徳における友達の見解を掲示し、自分の気持ちを伝え、友達を思いやり、助け合いながら行動できる児童の育成に努めた。

ウ 特別支援学級との連携・交流

特別支援学級ポプラは、特別な所ではなく、「みんなが困ったときにじっくり学習したり考えたり、相談したり、心を休めたりする所」と低学年の頃から伝え、身近な存在であることを意識させている。ポプラ学級の廊下や教室の掲示物は心を和ませ、季節感にあふれている。常に人とのコミュニケーション力を高めるための環境作りがなされている。



(2) 互いを大切にした豊かな体験活動

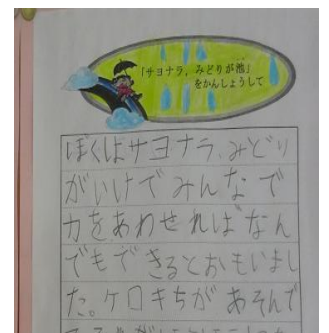
ア よいところはけん運動（なかよし週間）

1年に2回、学校全体でよいところ発見運動を実施し、自分や友達、学校のよいところを見つけてカードに記入し、学級や昇降口に掲示し、互いの良さを認め合う意識の高揚を図った。

2学期は、なかよし週間として1週間程度人権週間を設け、その機会によいところを発見したり、人権意識の啓発のために映画会を実施したりした。低学年が「サヨナラみどりが池」、高学年が「ハードル」を鑑賞し、感想を書いて人権意識の啓発にも努めた。

イ 地域交流・異学年交流・縦割り班活動

低学年の生活科では、1年生が地域の高齢者の方々に昔遊びを教わり、2年生はおもちゃ祭りで幼稚園生や1年生を招待する。また、6年生は交流センターのふれあい祭りに参加し、合奏団が敬老会に参加するなど、いろいろな場面で異学年交流や地域



との交流が行われた。

学期に一度の縦割り班遊びでは、6年生を中心に話し合い活動が行われ、その後、鬼ごっこやボール遊び、長縄、フルーツバスケット、爆弾ゲームなどをして上級生が下級生の面倒をみながら楽しく活動することができた。

ウ あいさつ運動

運営委員会を中心にあいさつ運動を実施した。一昨年から中学生も加わり、小中連携の活動となった。互いに気持ちのよいあいさつを交わそうとする意識が高まった。

エ 福祉体験

5年生は、総合的な学習の時間を活用し、高齢者の疑似体験や車椅子体験などの福祉体験活動を行った。体験をとおして、高齢者や障害者への理解を深め、助け合っていくことの大切さを学ぶことができた。

オ 読み聞かせ

火曜日の朝は、保護者のボランティアを募り、1～4年生まで読み聞かせを実施している。また、年に2回の読書週間には委員会の児童による読み聞かせも実施している。本年度からは委員会の児童による読み聞かせの回数を増やした。読み聞かせを通して、本の出会い、人との出会いがあり、豊かな心を育むように努めることができた。

(3) 互いのよさを認め合うための学級づくり

ア 構成的グループエンカウンターをとおしての学級作り

(ア) たましいのあくしゅ

席替え直後に行った。隣の席の児童と握手をするが、心の数だけ手を握る。自分と相手が同じ数だけ握るとうれしい気持ちになる。体の触れ合いを通して友達と関わるっていいな、友達とつながったという実感をもたせることができた。

(イ) ジェスチャーで集まれ

何もしゃべらずに、ジェスチャーで仲間集めをして、集まった後に、互いに「好きな物」を教えて自己紹介し、互いを理解することに役立てた。ジェスチャーでの仲間集めは「誕生月」や「着ている服の色」などで行い、仲間集めをして好きな物を教え合う。2回した後に、自分の生活班に戻り、互いの気持ちをシェアした。「自分と同じ物を好きだと分かってうれしかった」とか、「〇〇さんの好きな物が分かって楽しかった」などの感想が交流された。

(ウ) リス、ウサギ、ネズミゲーム

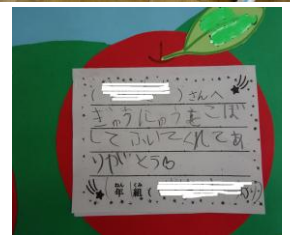
友達となかなか関わらず、一人で遊んでいる児童や自分から声かけをできない児童のために行ったエクササイズである。3人グループを作り、「あそぼ」とか「入れて」、「いいよ」「一緒に遊ぼう」などと声をかける練習を行った。

イ なかよしの木 (自他のよいとこさがし)

自分のよさについて考えたり、友達のよさについて考えたりする機会を設け、「なかよしの木」として教室に掲示した。小さな文字を書くことが、まだまだ苦手であるが一人一人一生懸命書き、互いのよさを書けるようになってきた。

ウ よかったこと・うれしかったことの発表 (帰りの会)

帰りの会で自分のよかったことやうれしかったことを発表し、自分が一日楽しく過ごせたのかを振り返った。



3 成果

- (1) 日常教育活動の様々な機会をとらえて、自分のよさに気付いたり、友達を大切にしようとしたりする気持ちが育まれ、一人一人の存在感を高め合うことができた。
- (2) 構成的グループエンカウターの手法を取り入れて、学級づくりを行うように心がけてきた。友達に対する言葉のかけ方や自分の気持ちを表現することができるようになってきた。

II 今後の課題

- (1) 人権教育の意識を高めるために、人権教育の視点に立った教育活動の見直しと改善を図る。
- (2) 人権教育に関する理解と認識を高め、指導力向上を高めるための教員研修のあり方を推進する。
- (3) グループエンカウンター等を計画的に取り入れ、人権意識を高めるとともに、毎日実践していることを新鮮にとらえるための手立てを考えたい。

III 人権コーナーの設置

昇降口に「よいとこはっけん」コーナーや人権週間の映画会の感想を掲示した。

